

テレワークの種類	在宅勤務	モバイルワーク	サテライトオフィス	狙い	生産性向上	移動時間短縮	非常時の事業継続	顧客満足度向上	WLB向上	オフィス費用削減	通勤弱者対応	創造性向上	優秀な人材確保	省エネ・CO2対策
	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○		○

企業の概要

社名	株式会社アスクレップ	都道府県	東京都
業種	医療、福祉	従業員数	260人
事業概要	CRO(医薬品開発業務受託機関) 製薬会社や食品会社、バイオ企業等の研究・調査を受託し、外部機関としてサポートするサービス業		

テレワーク実施概要

雇用上の規定	就業規則・リモートワーク制度規程
テレワーク担当部署	経営企画部 人事総務グループ
テレワーク対象者	社員・契約社員・在宅社員
実施者数	約130人
実施日数	平均月4回以上 (各人の業務状況によりフレキシブルに設定)

テレワークの導入・拡大の経緯

かねてよりコアタイムのあるフレックスタイム制度を活用していましたが、昨年10月よりコアタイムなしの「フルフレックス制度」、および、働く場所を特定しない「リモートワーク制度」を導入。これに伴い、業務の方法やプロセスの改革に乗り出し、2018年4月より「在宅社員制度」を開始しました。オフィス勤務のメンバーは、業務都合に応じて、オフィスのみならず様々な場所で勤務でき、一方で「在宅社員」のように、完全にオフィス外から業務を行うスタイルも定着してきました。

テレワークの概要・特徴

全社員を対象に、場所を特定せず働くことができる制度を採用しており、オフィスの他に、自宅や客先・外出先などで業務を行うことが可能。業務開始・終了時刻を自由に設定できる「フルフレックス制度」と併せて、柔軟性の高い働き方を実現しています。

特に、今年4月～導入を始めた「在宅社員制度」では、仕事のベースを完全にオフィス外(主に自宅)に移し、オフィスの場所にとらわれない人材確保を実現。地方の優秀人材獲得や、通勤時間分の有効活用で、生産性を向上させることにつながりました。育児・介護・通院などで、細切れ時間でしか働けない方々にも就労の機会を提供することができ、今後の可能性を感じています。

テレワーク導入の効果(経営にもたらした効果、その他効果)

- WLBの向上
働き方のフレキシビリティが高まり、社員が趣味やボランティア活動等に割ける時間も増え、生活全体のメリハリが出てきたようです。広範な興味関心や、意欲向上につながり、WLBは向上していると思います。また、「在宅社員」には、育児や介護、自身の健康上の課題など、様々な理由で通勤やフルタイム勤務が難しい方々を積極的に採用したため、雇用の拡大にも貢献できたと思います。
- 優秀人材の確保
首都圏では確保が難しくなっている看護師や医療関係者を、地方都市で確保。優秀な方に安価でご活躍いただくことができ、生産性が向上。お客様に対して、より安価なサービスの提供が可能となりました。
- コスト削減
これまでオフィスで行っていた業務を在宅社員にシフトしていくことにより、将来的なオフィス面積削減にもつながる見込み。